読書界　２０２１年度第1号

藤島高校図書館

今年から「アサドク」と称して、朝の静粛タイムに１年生全員に週１回読み物を配布しています。２・３年生も　Google Classroom「藤高図書館2021」の「アサドク」コーナーで読むことができ、感想・質問を Google Formsに投稿してシェアすることもできます。同時に本校図書館に関連図書を展示します。

【感想投稿から】

第１回「学ぶことの意味①　外山滋比古『思考の整理学』」の感想

＜１年男子＞　学校や国は密かに「何も考えずただついてきて欲しい。」「言うことを素直に聞いて欲しい。」とグライダー人間を求めている部分があると思うが、上の人の意見を何も考えずただついていくだけでは人間には考える脳があるのにもったいないし、騙されたり、自分にとって不利になったりしてしまうかもしれないから飛行機人間に自分からなることが必要だと思う。

＜１年女子＞　（略）今の日本の教育のやり方はおかしいと思う。なぜなら、意味のあることもあると思うが無意味と思われることも多くあるからだ。ある勉強は、その場限りのテストなどには役立っていても、その人自身、あるいは日本の将来につながり、役に立たなければ、全く意味を成さないと思う。将来に自力で翔んでいけるような人材を育てるためにも今の日本の教育を変えるべきだと思う。

＜１年女子＞　近頃、受動的な学習ではなく“能動的な学習”、勉強ではなく“学問”とそれぞれ後者が優れているかのような言葉を耳にする。現代文の授業でも『知の体力』という文章を読み、受験のためではなく自分が困難に陥った時に自分で考える力を蓄える学習が大切だと学んだ。非常に納得ができ、将来は今以上に自分で考える力が大切になっていくとも思う。しかし、受験のためでない学習とは一体何なのか。どうしたら自分で考える力を養うことができるのか。そもそもそれは学校でできることなのか。いろいろな人が今の学生の普通の学習に提言、意見、ケチをつけるが、具体的な対策を私は見たことがない。受験や試験が現在の形になり、それがずっと続いているのは『先人』たちがそれが社会に出たあとに役に立ち、生かせるものだと考えたからではないのだろうか。学ぶって何だろう？

第２回「学ぶことの意味②　内田樹『キャンパスとメンター』」の感想

＜１年男子＞　まず、なるほどな、と思った。新型コロナウイルスの影響で、「大学生がオンライン授業ばかりだ」といったニュースがよく報じられていた時期があったが、自分はあまり深刻に受け取っていなかった。学歴社会の中、単位が取れて卒業できればいいじゃないか、なんて考えていたところもあった。けれど、この文章を読んで、キャンパスライフの中での、何気ない出会いの意味に納得した。あまり大学の面白さなんて考えたことがなかったが、これをきっかけに、自分の興味・関心を惹く大学は、面白そうな大学はどこか、なんて考えてみるのもいいなと思った。大学というものの価値を見出せた気がする。

第３回「学ぶことの意味③　俵万智」の感想

＜１年女子＞　私もよく無駄のような話をするが、それには教養につながるような話もあるし、考えを深められるようなものもあるので、ただ一概に無駄とは言えないと思った。すべての時間は無駄だと思わなければ無駄ではないのだと思った。

＜１年男子＞　俵万智さんの事は、もちろん「サラダ記念日」等で前から知っていましたが、まさかこんなに身近な人だとは思っていませんでした。先生方もよく「この高校には変人が多い」と言っていましたが、それはどうやら昔から変わらないようです。俵万智さんの感性はこの高校で育てられたのか、と思うと少し誇らしくなります。演劇は人の情感を育てるとよく聞きます。少しだけ演劇部に興味がわきました。

【図書委員推薦図書】

〇加藤シゲアキ『オルタネート』

この本は、本屋大賞や直木賞などにノミネートされた今とても注目されている作品です。この本は主人公である3人の高校生が恋や友情や家族と「つながる」ということについて高校生限定のマッチングアプリを通して学んでいく青春小説です。私たちと同じ世代目線で描かれているのでとても読みやすいと思います。また、場面の切り替えが速いので飽きずに一気に読み進めてしまいます。ぜひ読んでみてください！

（１年女子）

〇河合莞爾『粗忽長屋の殺人』

渋い表紙だが、おじいちゃんが読んでそう…と距離を置かないで欲しい。この本は、落語にある「妙な噺」を解決していくミステリー小説だ。現代の言葉と昔の言葉が織り成す、落語ならではの会話のテンポは、文字を読んでいるという感覚はなく、実際に見ているように感じる。活字が苦手な人にも是非おすすめしたい。

（１年女子）

〇いぬじゅん『君を忘れたそのあとに。』

この本は家庭の都合で半年ごとに転校を繰り返す高校生の主人公がある年、共通点のある男子と出会い、前向きに進んでいく恋と友情の青春小説です。クラスメイトの優しさや感動のラストは必見です。ふたりの間にあるつながりが明らかになっていくにつれ、早く読み進めたくなると思います。この方の本はどれもおもしろいので、ぜひ読んでみてください。（１年女子）

〇大橋崇行『遥かに届くきみの聲』

ざっくり言うと、朗読部×青春小説です。登場人物たちの本の深い解釈から作られる朗読の表現が繊細で、朗読の世界に魅了されてしまいます。文章が読みやすいので、普段あまり本を読まない人にもオススメです。みなさんも一度、朗読の世界に浸ってみるのはいかがですか？（１年女子）

図書館ライブ（弦楽部）

図書講演会
（中川和也先生）